

小田原散歩

今日は二宮から西、山北、松田、小田原、真鶴、箱根方面へ散歩に行きたいと思います。一般的には小田原のかまぼこ、湯河原の温泉、箱根のリゾートが有名ですが、地元で愛される場所があり、誰かの心の故郷になっているにちがいない。気候的には温暖な場所だが箱根はしばしば富士山に巻き込まれて大雪になることがある。そんな時に無防備に車でドライブすると、翌朝、銀世界になって大慌て、帰れない。それでは、丹沢湖から出発しましょう。

小田原散歩

- 1.山北町の丹沢湖マラソン大会
- 2.小田原から大雄山
- 3.真鶴のみかん狩りと海岸
- 4.箱根彫刻の森
- 5.酒匂川さかわがわで石採取

1.山北町の丹沢湖

秋、11月に丹沢湖でマラソン大会がある。山北町の町おこしとしてもう39年の歴史がある老舗の大会である。会社にまだクラブ活動があった頃、陸上班に入って、マラソン大会や駅伝に参加していた。3年ほど班長をし、色々な企画をたててみんなで遊んでいた。長い会社ライフの初めの5年を大いに楽しんだ。当時、会社の陸上班の4大イベントと言えは10月の平塚市24時間マラソン、11月の芦ノ湖マラソン、丹沢湖マラソン、正月の平塚市実業団駅伝であった。



丹沢湖は神奈川県の水瓶。西丹沢の酒匂川水系の河内川に造られた三保ダムによって誕生した人造湖だ。周囲は12km、山林に囲まれてるいる。ハーフマラソンでは距離が足りないので中川温泉までちょっと往復する。この往復の高低差が後半の疲れたところに襲ってくるのでこたえる。

丹沢湖は神奈川県の水瓶。西丹沢の酒匂川水系の河内川に造られた三保ダムによって誕生した人造湖だ。周囲は12km、山林に囲まれてるいる。ハーフマラソンでは距離が足りないので中川温泉までちょっと往復する。この往復の高低差が後半の疲れたところに襲ってくるのでこたえる。

天气に恵まれれば紅葉の中のを走る爽やかな秋風の中のマラソン大会であるが、日向は暑くて汗がでることもある。もし、雨なら、冷雨に打たれて、震える寒さの中をハッハッと蒸気機関車のように走る。5回参加したが、一度も入賞したことはない。先頭集団は湖の反対側に見える、同時に出発したのに同じ人間として、どうしてこんなに差がつくものか？



中川温泉は西丹沢の箒沢の上流にある温泉町である。この河原に良い石があり、石マニアが集まる。箱根の造山時の地層があり、玄武岩、安山岩、花崗岩等の火成岩（マグマ自身、またはマグマと接して化学変化した石）が沢山ある。

写真は河原の残る見事な緑の柱状節理(せきちゅうせつり)である。この水系は青から緑系の石が多い。石は酸化鉄が多いとオレンジから赤色になり、長石が多いと緑色になる。庭石にするなら、水を連想する緑の石を、そして山は赤色で表現する。

小学校が更衣室兼大会本部であった。学校に入るのも何年振りか？完走後ここで猪鍋と牛乳の無料券を引き換え、そして山の物産展を楽しむ。自宅用に自然薯、キノコ、木ノ実を毎回買って帰るのもこのマラソン大会のご利益である。



2.小田原から大雄山

大雄山（だいゆうざん）を知ったのは、平塚勤務になってからである。小田原からすぐのところにあるが、静岡県民時代は全く無名の地であった。単に生活圏に無いだけであり、神奈川県民なら割と有名な場所らしい。

大雄山線にのり、秋の紅葉を眺めに行った。始発の小田原から乗車し、21分、運賃270円で終点の大雄山駅につく。駅前は割と広いバス停があり、ここから最乗寺(道了尊)行きのバスに乗り、10分ほどで山門に到着する。すぐに土産物がある広い道を山側にゆるい坂道を登り始める。大きな杉が何本も立ち、上を見上げると杉の木に天が支えられるように錯覚する。途中、身長2mを超える山伏、天狗、その下駄の像がある。ここは人間が入ってはいけない「杜子春」にでてくる峨眉山の霊場に似ている。

紅葉の名所であり、シーズンには大勢の人が紅葉狩りを楽しむ。紅葉は透過色の赤が綺麗。太陽の光が赤い葉っぱに当たり、透過する。それを下側から撮影すると赤の純度が高いシグナルレッドの色となる。一方、反射色は葉から反射した色を見るので濁っている。光が反射する正反射方向は彩度が高いがその他の角度の光は濁った赤色である。撮影する紅葉🍁は多くがこの透過色である。ピュアな光は色純度が高く、視神経を刺激する。

この最乗寺は前橋の龍海院と同じ、曹洞宗である。故郷の静岡市には徳川家康が竹千代と呼ばれていた子供の頃に幽閉されていた臨濟寺がある。なるほど、調べると中国の禅宗五家（曹洞、臨濟、沩仰、雲門、法眼）の1つで、日本においては禅宗（曹洞宗・日本達磨宗・臨濟宗・黄檗宗・普化宗）の1つである。私は座禅やったことがないので、将来、機会があれば福島メンターの指導

のもと、体験したい。写真は緑の松と赤の紅葉のコントラストが目を引き大雄山の紅葉。ここで写真を見ながら一句作った。

紅葉狩り

相模の海に

大雄山

解説

紅葉狩り、

相模湾の海の幸を堪能して

大雄山に登る。

小田原は海と山の幸に恵まれた場所だ。



雲の嶺

栄螺の奇峰に

歓喜湧く

解説

雲の嶺(夏の季語)の湧き上がる風景と

サザエ(春の季語)の貝の巻が奇峰のように重なり

磯遊びの子供が見つけて歓声をあげる。



4.箱根彫刻の森

私の出身は静岡、今は神奈川県民として藤沢で暮らしている。神奈川の人には箱根好き。会社の保養所、レジャー温泉があり、庶民が行く人気の場所である。ここに彫刻の森がある。この彫刻の森美術館は湯元から登山鉄道に乗って彫刻の森で下車し、徒歩2分で行く。

箱根も広いので、仙石原、芦ノ湖、大涌谷があり、それに伴い色々な施設がある。ある冬の日には妻と出かけた。この箱根で珍しく大雪にあたり、久しぶりの雪原を楽しんだ。

雪原の屋外彫刻群もおつなもの。白の絨毯の上に黒の彫刻が重々しく並んでいる。



5.酒匂川(さかわがわ)で石採取

初めて東海道でこの川を渡った時、「僕には縁がない川だ、酒を飲まない、匂いで酔う」と思ったのがこの小田原の駅からほんの3kmほど離れたところにある川である。この川は石マニアのメッカで、ここに来ると箱根火山帯の造山の歴史がわかる。石をみながら地学&無機化学を愉しむ。

“酒匂川（さかわがわ）は、静岡県および神奈川県を流れる二級河川。静岡県内では鮎沢川（あゆざわがわ）と呼ばれる。富士山の東麓と丹沢山地の西南部を主な源流とし、JR東海の御殿場線と並走するように流れ、丹沢山地と箱根山の間を抜け足柄平野を南下、小田原市で相模湾へと注ぐ。”

写真は川を渡るドクターイエローの新幹線（線路の保守）とお友達の石達をハンマーで割って。



おわり